

新たな大津市観光計画策定に関する意見交換会（第４回目）

議事録

1 開催日時・場所

日時：令和７年１１月７日(金)１０時００分～

場所：大津市立市民文化会館１階 多目的ホール

2 次第

開会

議事・新観光計画の原案

その他（今後の予定について）

閉会

3 出席者

(順不同、敬称略)

所属	役職	氏名
阪南大学 国際学部国際観光学科	教授	福本 賢太
(公社)びわ湖大津観光協会	専務理事 (兼事務局長)	宮本 説三
おごと温泉旅館協同組合 おごと温泉観光協会	理事長 会長	池見 喜博
京阪ホールディングス(株) (一社)比叡山・びわ湖 DMO	経営企画室 事業推進担当 課長	片岡 大祐
湖信会 (公社)びわ湖大津観光協会	園城寺 (三井寺) 執事長 副会長	福家 紀明
(有)至誠庵 (一社)石山観光協会	取締役 副会長	井上 貫太
(一社)シガーシガ	代表	岡山 泰士
びわ湖大津プリンスホテル	総支配人	中山 隆之
(株)らくたび	代表取締役	若村 亮

委託事業者 専門家

(株)LOCAL ROOTS	代表取締役	檜垣 敏
----------------	-------	------

(事務局) 産業観光部 観光振興課

(委託事業者) (株)リクルート

4 会議内容

(1) 開会

配布資料の確認。

(2) 議事

【新観光計画の原案】

事務局より、新観光計画原案(20 ページまで)について説明。

●安定財源の確保の必要性について

発言者 A

宿泊税を既に導入している市町が導入前と導入後での宿泊実績に違いがあるのか比較数値がほしい。

宿泊者から「宿泊税を取られると思わなかった。」などの声は出ていないのか。

宿泊者が宿泊税の使い道に納得した上で払ってもらえる状態を実現したい。

事務局

ある調査では宿泊税を導入することで宿泊者が減るということはデータとしては無い。

宿泊税の導入を今後検討していくとなればどのような影響があるのか、アンケートや口コミ等を利用して検証したい。

発言者 B

宿泊施設では、既に入湯税と消費税をお客様からいただいている。さらに宿泊税も取るのであれば説明できるように使い道は明確にしてほしい。

また、温泉が無くなれば商売ができないため、温泉の維持管理はしっかりとしてほしい。

発言者 C

税の徴収方法として宿泊税は観光振興の安定財源として一番現実的だと思う。

発言者 D

資料 9 ページ『本市も他の自治体と同様に、法定外目的税である「宿泊税」をはじめとした、安定財源の確保について、検討する必要があります。』を入れるとどのような影響があるか。

事務局

この一文を入れることにより、財源の確保について具体的に検討するきっかけの一つになる。

- ・欠席者から事前に聞き取った意見（当日資料としても配布済み）

委員 E

■13 ページ 「県内屈指のサイクルステーションがありビワイチのゲートウェイとしての機能」

「県内屈指」を「関西屈指」としてはどうか。実際にも自転車を 300 台保有するサイクルステーションはしまなみ海道くらい。

また、「ゲートウェイ」という表現は一般の方に分かりづらく、「発着地」と表現してはどうか。

【新観光計画の原案】

事務局より、新観光計画原案(21 ページ以降)について説明。

●基本方針と推進する施策について

発言者 B

基本方針 1 の施策 4 「市民の観光への理解と共感の形成」が一番重要だと思う。

まず、地元住民に対して魅力発信をしていく必要がある。地元住民が動くことで地域が活性化していくと思う。行政や事業者がやっていることを市民も一緒にやっていくことはまちづくりに関わってくる。

発言者 C

地域の人と一緒に取り組んでいきたいと思いますというようなメッセージを入れても良いのではないかと。

発言者 F

今までは市民は関係ないという感じであったが最近はそのあたりが変わってきているように感じる。

発言者 G

一番のプロモーションは市民が良い街だと発信していくことだと思うため、「地域の人と一緒に」というメッセージを入れることは良いと思う。

専門家

観光庁も「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりをしていきたいと発信している。
大津の人が自慢すると周りの人が「行ってみたい！」と思えると思う。

事務局

市民の理解や市民と共にということは大前提にこの計画を作成しており、目指す姿に明記している。
文言については検討させていただきたい。

- ・欠席者から事前に聞き取った意見（当日資料としても配布済み）

委員 E

■25 ページ 施策2「既存コンテンツの高付加価値化」

観光庁の補助金でも、富裕層への対応が強く打ち出されている。今年のインバウンドのコンテンツ造成のような、付加価値を高めていく施策を続けていくべき。

■32 ページ 「市内宿泊施設の客室稼働率と客室単価」

特に繁忙期に関しては、空室が無く、大津市での宿泊を諦めることも多い。
先日の台湾の自転車ツアー約20名も、調整できず近江八幡市で宿泊している。
宿泊において、様々な価格帯やタイプの選択肢があることは大切だと考える。

●全体について

発言者 D

観光消費額がすぐにコロナ前に戻るような目標になっているが、日本人の戻りが非常に悪い。その中でインバウンドを取りこめていない大津市としてはこの目標を達成するのは難しいが、そこを目指して頑張っていくということで認識した。

発言者 H

14 ページに記載の「文学のまち」は良いと思う。桜や紅葉等は季節に偏りが出るが、文学は通年で活用できるため安定したテーマだと思う。

海外のお客様は体験に関心があるため、同じものを見せるにしても見せ方が変わってくる。

発言者 G

自分は市民に近い立ち位置と感じており、自分だとうまく関われるかというイメージが掴めてきた。

発言者 I

市民理解の醸成が必要。市外の方にも情報が上手く伝えられていないジレンマもあるが市民の方にも伝えられていないと感じている。

観光協会として地域経営を担えるような組織になっていかなければならないと思っている。

発言者 J

宿泊税を第一に考えていかれるのだと思うが、他に検討できる財源が無いかは常に考えている。宿泊税が独り歩きしないようにした上で進めてほしい。

観光事業者が自分たちの魅力を高めることで地域の方に地域で働いてもらうことも地域理解の醸成につながると思うので頑張っていきたい。

発言者 A

現状の課題に観光地から観光地に行くためのアクセスが悪いことがある。レンタカーの利用もまだまだ進んでいない。名所はたくさんあるが簡単に行き来ができないという弱みを少しでも解決する策を加えたい。

目標や KPI については可能な限り数値化できるようにしてほしい。

36 ページについて、行政や DMO 等が一つの会社組織として経営していく為にもそれぞれの強みや特徴を整理しておきたい。

発言者 B

宿泊税については勉強会等で理解を進めていきたい。宿泊税だけでなく他の方法も無いのかは検討を続けたい。

自分たちも大津の魅力を聞かれたら「京都や大阪に近い。」と言ってしまう。大津には魅力がたくさんあるのにこれではいけない。市民の方はイベントでお金を落とす方にまわっているが、情報発信する方にはまだまわっていない。もっと市民も一緒に魅力を発信していくようになれば良い。

発言者 F

大河ドラマ「光る君へ」の PR によって、例えば石山寺周辺の市民が「こんなすごいものが地元にある。」と自慢できるようになった。観光を盛り上げていくためには市民が大津の PR をしていくことも大切である。そのためには、観光事業者が市民にも情報発信することは必要。

また、観光で人が来るということは色々なところに波及して最終的には市民にも還元されると理解されることも必要。

専門家

宿泊税だけでなく観光駐車場の有料化や入湯税、びわ湖の遊漁税など色々なことを検討すべき。

26 ページに記載のある情報発信という言葉は情報伝達に変えてはどうか。サイトに情報を載せるだけでも情報発信に含まれるため、伝えることを含めるのであれば情報伝達の方が合っている。

30 ページの来訪者満足度調査について、市民向けの「大津を知人に紹介したいか。」などを聞く項目を追加してもいいのでは。

36 ページの観光地経営について各団体が縦割りで運営することは限界がきている。課題を共通認識し、役割を明確にして選択と集中をおこない、優先順位をつけていく必要がある。

発言者 C

本日の皆さんの意見を踏まえて事務局には修正を検討していただきたい。

市民参画の目線は少し強調しながらまとめていただければと思う。

宿泊税を検討するとともに他の財源確保についても並行して検討しながら進めてほしい。

(6) その他(今後の予定について)

12 月 11 日 大津市議会生活産業常任委員会

12 月 25 日 パブリックコメント開始

1 月 13 日 パブリックコメント終了

2 月 下旬 意見交換会(第五回)

(7) 閉会